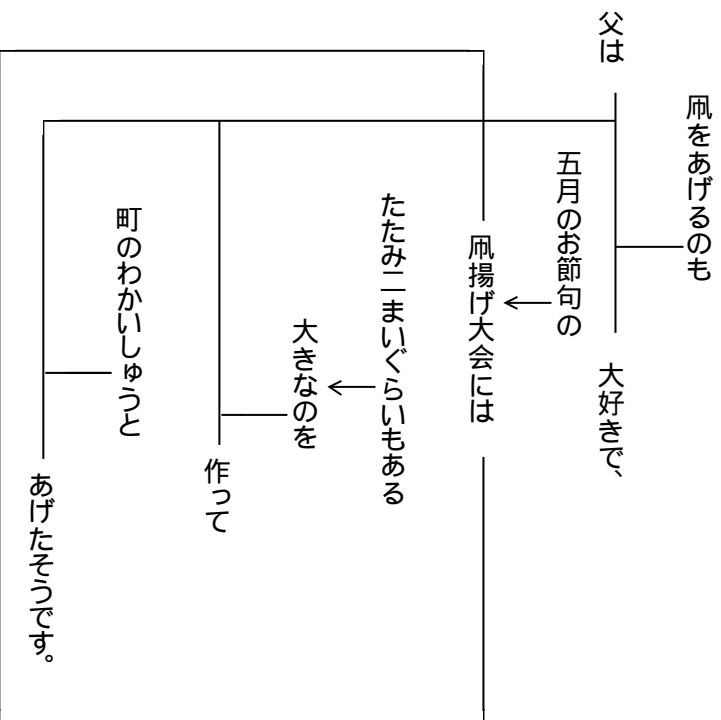


父は風をあげるのも大好きで、五月のお節句の風あげ大会には、たたみ二まいぐらいもある大きなのを作って町のわかいしゅうとあげたそうです。

風あげ大会が近づくと、父はもう仕事が手につかなくなったといえます。

風のほねにする竹を山に切りに行ったり、それを組み立てたり、絵をかいたり、糸目を付けたり、しっぽを下げたり……。

文図



風あげ大会が 近づくと



父は、仕事が手につかなくなった

といえます。

風のほねにする竹を山に切りに行ったり、それを組み立てたり、絵をかいたり、その紙をはったり、糸目を付けたり、しっぽを下げたり……。

語彙文法的な意味

せつく 節句 節供

五節句の式日。また、そのうちの一日。それぞれ行事をし、特別な食物を食べる風習がある。

いせつく 五節句 五節供

一年間の五つの節句。人日(ひんじつ)=一月七日(人日)ひょうし=三月三日(人日)端午(たんど) =五月五日(人日)七夕(ちちせき)=七月七日(人日)重陽(ちゅうやう) =九月九日(人日)。

大きなの

形容詞に「の」をつけて名詞化する。「の」は「の」「の」「の」「の」と同じ。

書かれているなかみ(映像・感情・説明)

には、風を作るのが好きな父の姿が描かれていたが、では風をあげるのも好きな父の姿が描かれている。五月の風あげ大会には、畳二枚分もある大きな風を作って、町の若いしゅうとあげたことがあるといつ父の思い出が語られる。

その五月の風あげ大会が近づくと、本職の魚屋の仕事をおいて竹を切り山に行ったり、組み立てたり、絵をかいたり、紙をはったり、糸目を付けたり、しっぽを下げたりと、風作りに奔走する喜々とした父の姿が語られている。

だれのこと?

父のことです。「父は」と書いてあります。

父のことであることやしたことが三つあるよ。

あげたそうです。

「作って」もあります。

「大好きで」もあります。

最初の「大好きで」といつのを考えてみよう。

何が大好きなの?

風をあげるのも大好きです。

「あげるもの」の「の」について考えてみよう。意味を変えずに、ほかの言い方で言ってみよう。

あげること

風をあげるといってなんだね。

「あげるもの」と書いているので、「も」からわかることは、

作るのが大好きだったけど、あげるのも大好きです。

つぎは、「作って」だけ、何を作ったの?

大きなのをです。

つぎは「の」を「の」と同じと言いましたね。では「

」で「の」にあてはめるとどうなるかな?

あてはまらない。

「大きなのを」とは「の」では言えません。

大きな何に言いかれますか。

大きなもの ・ 大きな風です。

どのくらい大きいのかな?

たたみ二まいぐらいもある。

たたみ二まいって、どのぐらいかな?

たたみ二まいの大きさはね、たて一八〇cm、横九〇cmの大ききなんだよ。そつだ、教室のドアと同じぐらいの大ききだよ。

「の」にまた「も」がでてきたね。「の」「も」は、

強く言っている。 ・ 大きいんだよというのが言いたい。

この風あげ大会には、たたみ二枚もある風はほかにはあが

っていない。

「あげたそうです」はだれとあげたの?

町のわかいしゅうとです。

わかい人たちは。

くも

他のものごとと同様

両者が成立

極端な例をあげて、そこまでもよびこむを示す。

「風をあげるのも」「は、だろ。作るだけではなく、あげるのも好きだったといつこと。根っからの風好きの父である。

「たまたまいまいくらいもある」「は、か？、しかし、「ここでは、極端な例といつよりも、まさに、たまたまいくらいいある大風だったのだろ。」

わかいしゅう

年の若い男。若者。あんちゃん。

町内または村内の祭礼などの世話をする若者。

もう

「副」 事柄が今や確定的だと思つ意を表す。『既に。』 済んだ事だ」「直子なら 来ている」「三十歳と言つけれど、まだ三十

とも言える」「ただ 必死にもがくだけ」…《否定的内容や仮定の表現を修飾して》今となつては。「遅いから 来ないよ」「だめだ」

「いくら勉強しても手遅れだ。」「これからも。」「こんなすごい記録は破られまい」s 問もなく。今にも。」「来るころだ」「すぐ終わる」、現に、いやはや。」「そのテレビ、ゲームに 夢中なんだ」「ほ

れぼれする手並み」 《分量の表現を伴って》この上になお。」「更に多く。」「少し待って」「一つください」「できてはいるが 一つ

(＝更に何か)物足りない」「(＝あと)三人で締め切りだ」…更に別の。」「一人の妹」 歴史的仮名遣を「まつ」とする説(い

ま ま まつ)もめる。」「ここでは、の「現に、いやはや」の意味？ すっかり夢中になつて

いる、あるいは、はたから見ると、あきれれるような感じがおつてくる。

手につかない
他の事が気になつて集中できない。
「勉強も ない」

この場合、もちろん、風づくりのことが気になつて、仕事に集中できな

ないといふ。」「言つ、よりもさらに動作性のなくなった用法。主に「…といつ」の

形で用い、「これから転じた」「…」「…」「…」「…」の形も並び行われる。仮名で書くのが普通。

(1) (主)「…」「…」「…」「…」「…」といつことだ「などの形で(話の内容が伝聞に基づくことを表す。…と聞く。…するそつだ。…だそつだ。」「あの人には子供が三人いると・う」

といつことば、お父さんはわかいしゅうとていつい関係なのかな？

わかいしゅうを集めてあげた感じがする。

わかいしゅうに指示を出している。

親分っぽい。

お父さんは一人であげずに、わかいしゅうとあげたといつことは、それくらい風はとうだったの？

大きかった。

一人ではあげることができないくらい、大きかった。

お父さんが風をつくつてあげていたのはいつですか。

風あげ大会のとき。

五月のお節句の風揚げ大会。

だれのことか書いてある？

父のことです。

お父さんがどうしたのかな。

仕事を手につかなくなった。

手につかないといつていついといつ？

仕事をあまりしなくなった。

ちゃんと仕事をしない。

仕事をする気にならない。

風あげの事が気になつて仕事に集中できない。

まだ風あげ大会じゃないのに、風あげ大会のことばかり

考えて、仕事にならない。

お父さんが仕事をする気にならないのはいつものこと？

風あげ大会が近づくと

前の文に書いてあつたようにお父さんは風作りもあげるのも大好きだから、そのころになると魚屋の仕事をほっぽら

かして、風作りをしていたんじゃないかな。

「といいます。」「といつのは？

わたしがお母さんから聞いた話。

仕事を手につかなくなったお父さんは仕事をしないでどんなことをしていたのかな。お父さんが風作りにしたことが

たくさん書いてあるね。

竹を山に切りに行った。

風を組み立てた。

風の絵をかいた。

絵をかいた紙をはった。

糸目をつけた。

しっぽを作つてつけた。

他にもある？

「…」。」「と書いてあるから、風作りのためにしたこと

はまだあると思つ。

他にどんなことをしたんだろう？

できあがつた風をつまぐあがるかどうかためしてみた。

竹は何に使うのかな？

風の骨組みに使う。

糸目をつけるって知ってる？

知らない。

風に糸がついているのは知ってるけど…

紙だこのバランスをとるために、その表面に何本かの糸をつけるんだって。これがうまくついていないと、風はバランスがうまくとれなくて落ちたりするんだね。こんなに風のためにいるんなことをしているね。つまり、そ

ほね【骨】

体の支えとなり器官を保護する、カルシウム分の多い組織。「腰の」「」を折る「(転じて、精を出す意にも)」「が折れる」「(転じて、苦勞がある意にも)」「に徹する」「(転じて、強く心にたえる)」「と皮」「(非常に瘦)や(せているさま)」「までしゃぶる」「(転じて、徹底的に人を利用する)」「を拾う」「(転じて、人が全力を尽くして倒れたあとを引き受けて始末する) 全体を支える、しっかりしたもの。〴〵器物などの心(しん)となつて支える材料。「屋台(やたい)の」「傘の」「扇の」。物事の中核。「論文の になる部分」…物事にたえる気力。気骨(きこつ)。「のある人物」 骨が折れること。苦勞。「を惜しむ」「その仕事はなかなかだ」(骨は「な」の形で使う。「何とも な役目」

いとめ【糸目】

細い糸。線。紙だこのつりあいをとるために、その表面につける数本の糸。「たこの を直す」「金に をつけない」「惜しげなく金を使う) 一定重量の繭(まゆ)からとれる生糸の目方を百分比で表したものを。糸歩(いとぶ)。(柳の芽立ち。 器物に細く刻みつけた筋。「模様」 魚つりのえさなどにする、しがい科の環形動物。

の間は？

- ・ 仕事はしていない。
- ・ 仕事よりも風づくりのほつが一生懸命。
- ・ 「こまで読んでくると、どんなお父さんが、よくわかるね。仕事よりも風づくりのほつが好きなお父さん。
- ・ 作るだけではなくて、あげるのも好きだから、風のこと全部が好きなお父さんです。
- ・ そついつお父さんなんだね。